

東邦大学「生命（いのち）の科学で未来をつなぐ

女性研究者への継続的支援モデル」

本学は、自然科学系大学における男女共同参画の草分け的な大学として、特に医学部の中では女性医師支援活動が先駆的であると認知されている。3年間（平成21～23年度）の「女性研究者支援モデル育成」事業終了後は様々な学会での講演依頼や学外組織への男女共同参画に関する助言など、社会的活動も増えている。モデル事業当時および現在の主な取組みを下記にまとめた。

1. 女性研究者支援・相談体制の確立（点検、評価も含む）

事業に関する企画・立案・承認を行う「男女共同参画委員会」を設け、「男女共同参画宣言」・「男女共同参画に関する規程」を制定した。「男女共同参画推進室」を設け、室長の下でコーディネーター・カウンセラー・男女共同参画推進委員・研究支援員が協力して、事業活動を推進してきた。また、若手研究者のためにメンター制度を導入した。外部委員数名による「評価・アドバイザリ委員会」を定期的開催し、事業の助言・点検・評価を行った。男女共同参画推進委員を対象とした学内研修会開催や他機関シンポジウム参加により、委員らの意識向上をはかった。

2. 男女共同参画意識啓発活動、本事業の積極的広報

管理職職員・教職員対象の意識啓発講演会、公開講演会を随時開催した。リーフレットやニュースレターを作成して、女性研究者支援事業を様々な機会に広報した。ホームページを充実させ、学内誌や同窓会誌でも事業を取り上げて、教職員のみならず学生や父母・同窓生にも広く広報している。年度末には事業報告書を作成して学外へも広く配布し、男女共同参画意識の浸透を図ってきた。

3. 女性研究者の研究と出産・育児の両立支援

大森キャンパスにおいて病児保育室を開設、利用者が増加している。研究と出産・育児の両立支援として研究支援員を配置しており、平成25年度からは介護にあたっている研究者にも対象を拡大した。平成23年後の事業終了時には理学部では3名の被支援者の内、2名が講師から准教授に昇格、1名は海外の大学への留学が認められた。女性修練医の勤務継続を可能にするための柔軟な働き方として、短縮勤務の新職位「准修練医」制度を創生し、こちらも次第に利用者が増えている。さらに男女共同参画に関する教職員の意識調査も行っている。

4. 女性教員比率の増大、キャリアパス支援、次世代育成事業

平成20年度15.6%（看護学科を除く）であった新規採用女性教員比率を25%に上げるよう、学長が各学部部に要請した。23年度は平均24.1%の採用率となり、その結果、女性教員比率（看護学科を除く）も平成24年に22.3%（20年度は13.6%）に上昇した。看護師に対しては「非常勤研究生」の身分を制定し、研究との両立を奨励している。女子学部生・院生のキャリアパス支援のため、理系分野で活躍中の女性を講師としたキャリア支援講演会や懇談会の開催、女性研究者のロールモデル集の作成・配布、キャリアカウンセラーの配置を行った。医学部学生のカリキュラムに、選択授業「男女共同参画と医療」を組み込んだが、受講者が年々増加している。「女性医師支援室」との連携の下、女性医学研究者の仕事の継続と復帰支援にも取り組んできた。

なお平成24年9月からは、学長直属の「男女共同参画推進センター」や、その他の部署で、多くの事業を継続して展開している。病児保育は医学部病院の運営に移管された。

【連絡先】 東邦大学 男女共同参画推進センター
TEL: 03-5763-6685 FAX: 03-5763-6684 E-mail: danjo-o@toho-u.ac.jp
URL: <http://www.danjo.toho-u.ac.jp/>

